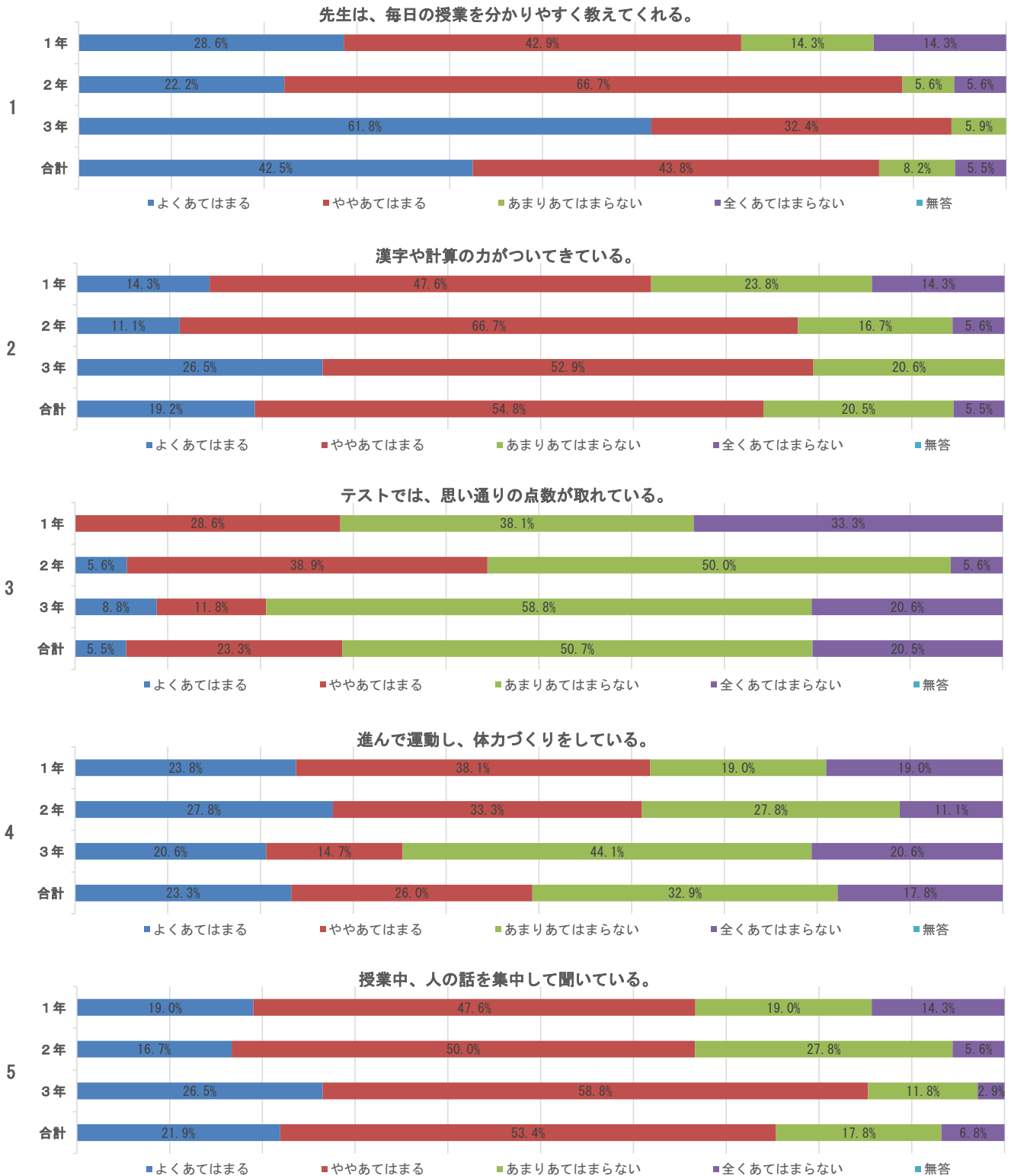


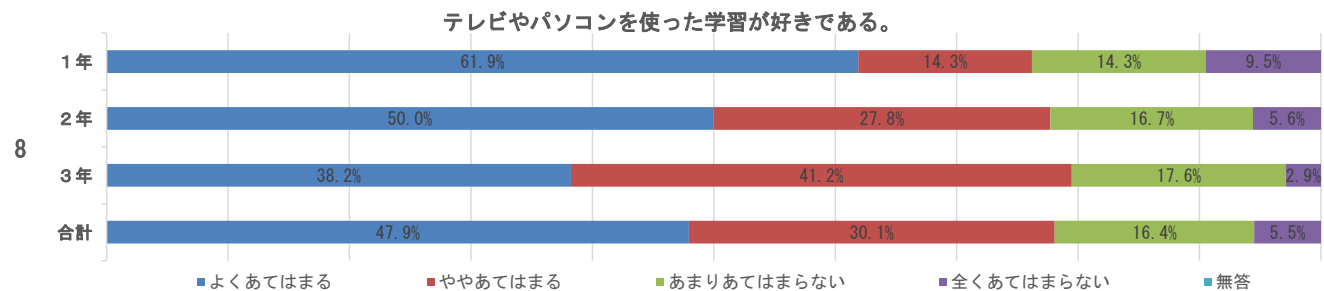
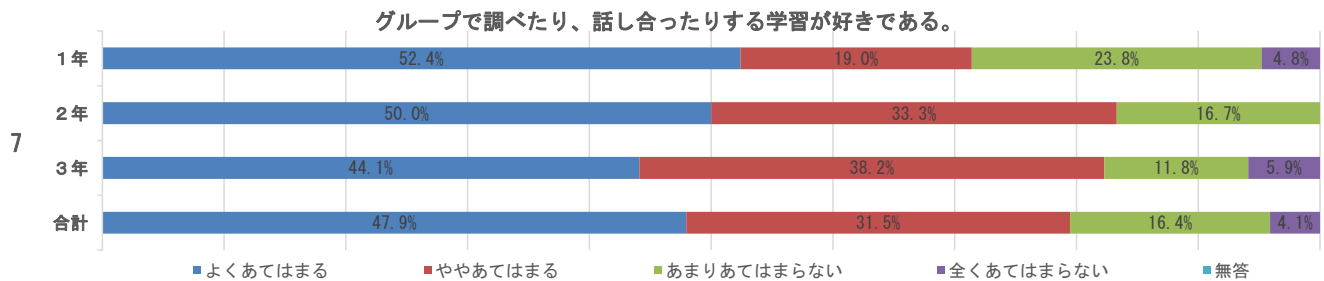
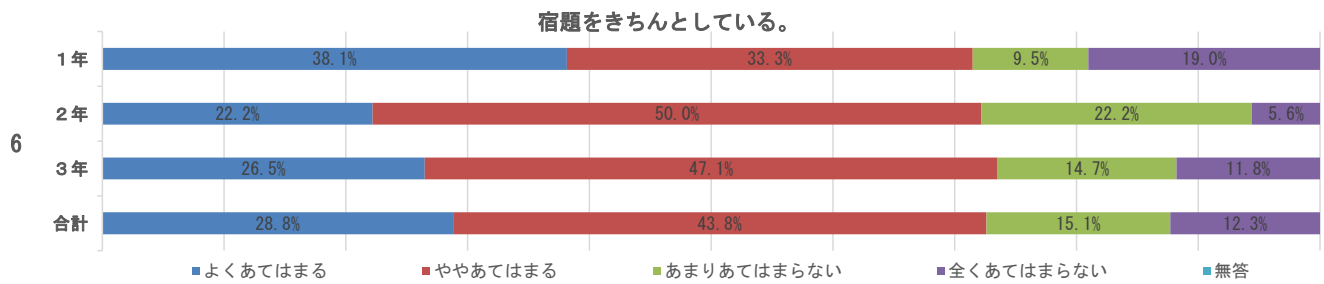
令和5年度 学校評価における反省と課題 瀬戸中学校(生徒)

「学力・学習指導」の分野（設問1～8）

基礎・基本的な学習内容の定着が見受けられ、設問項目2「漢字や計算の力がついてきている」では、昨年度から概ね満足できる割合が2.7%増加しており、各教科に意欲的に取り組める生徒が多くなってきた。一方、設問項目3「テストでは、思い通りの点数がとれている」では、昨年度から概ね満足できる割合が10%減少しており、学力の定着には欠かせない家庭学習の意義指導も含め、繰り返し学習する習慣の定着を図る。また、個に応じた指導とアドバイスを行う。さらに、設問項目1「先生は毎日の授業を分かりやすく教えてくれる」では、昨年度から概ね満足できる割合が8.8%の減少が見られた。「わかる・できる」の授業をめざし、「話し合い活動などを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう」、生徒の思考を深めるための手立てを行った授業を实践する。そして、一人一台端末を活用した学習のあり方についても再度検討し、共通理解を図る。



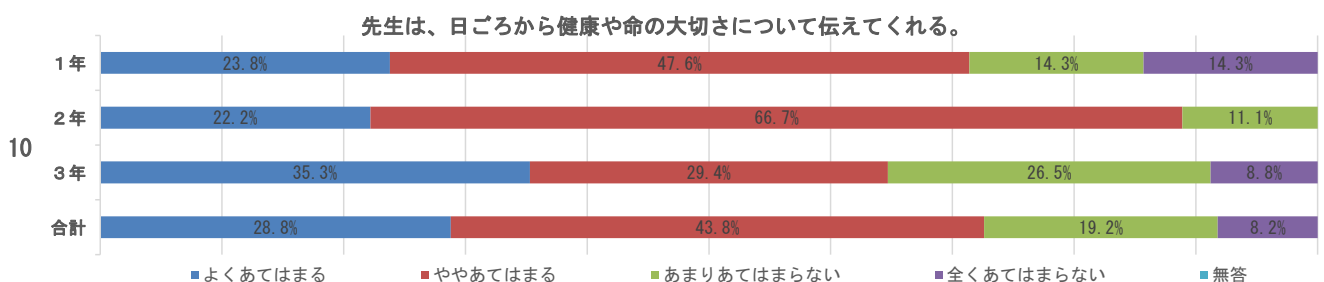
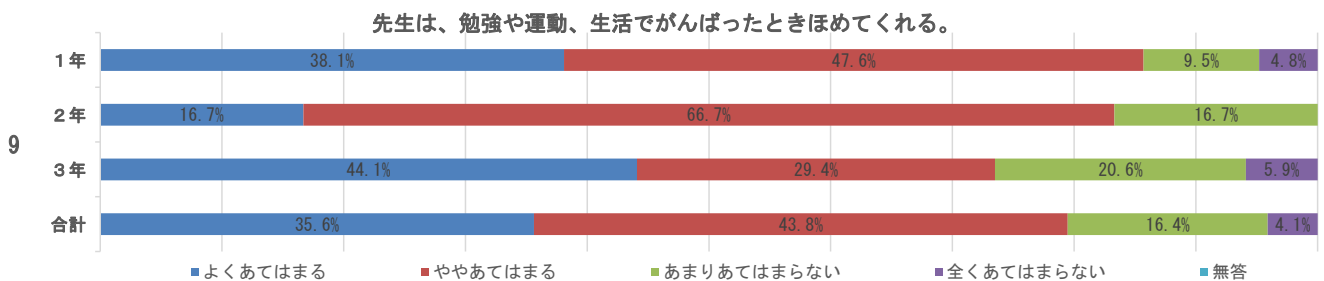
令和5年度 学校評価における反省と課題 瀬戸中学校(生徒)



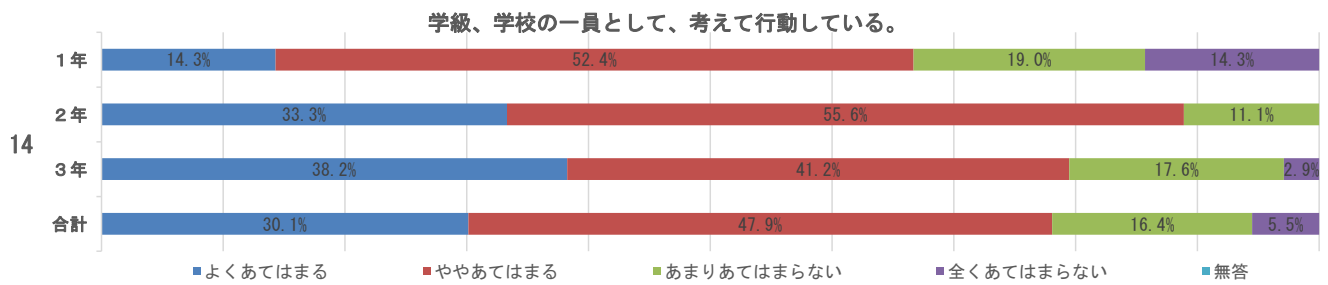
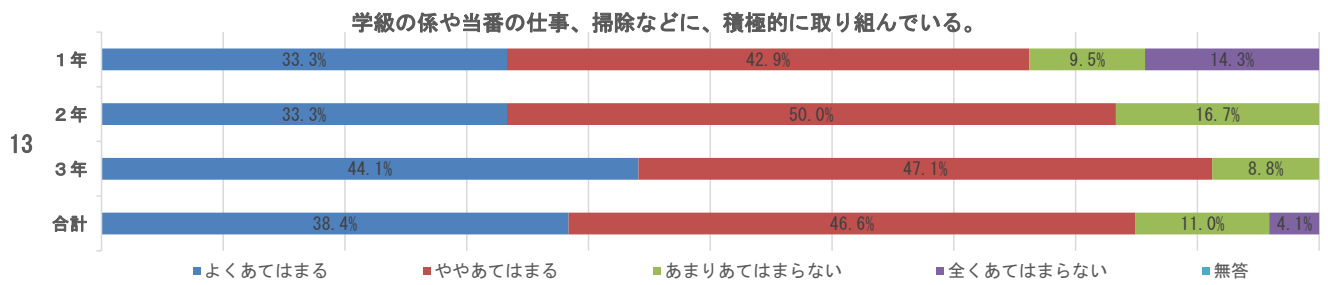
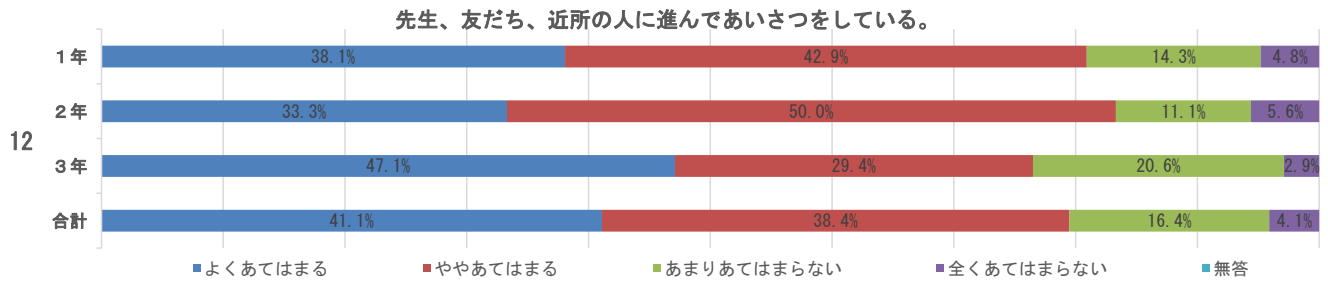
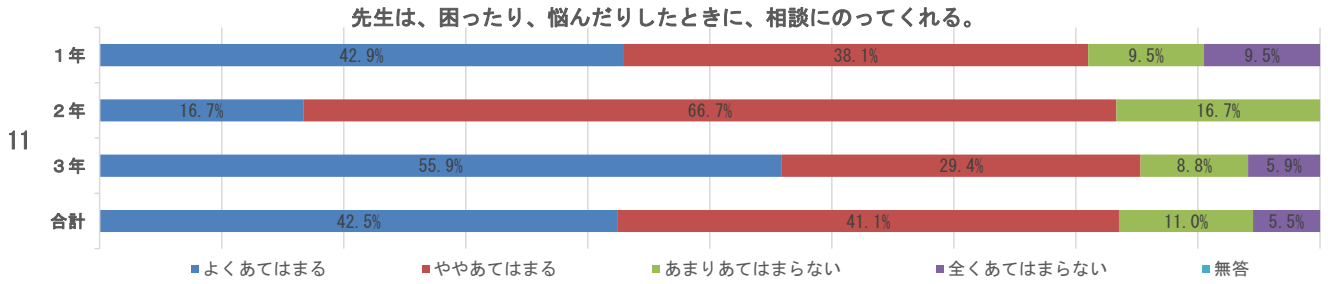
「学校生活・生活指導」の分野（設問9～14）

設問項目11「先生は、困ったり悩んだりしたときに、相談にのってくれる」では、6%、設問項目14「学級、学校の一員として、考えて行動している」では、9.2%と昨年度から概ね満足できる割合が増加している。生徒が主体となり、生徒会での意見箱の設置や校則の見直しも含め、よりよい学校づくりが進んでいることがわかる。また、先生方が生徒に声かけや個別面談を行い、家庭連絡及び家庭訪問等を通して、保護者との関係を密にすることができた結果と考えられる。

その他の「設問項目」については、昨年度から概ね満足できる割合は減少している。すべての教育活動を通して、PBS（ポジティブな行動支援）を行い、群青（生活記録）の活用も含めて、多様な教材や手法を用いた取り組みを実践する。



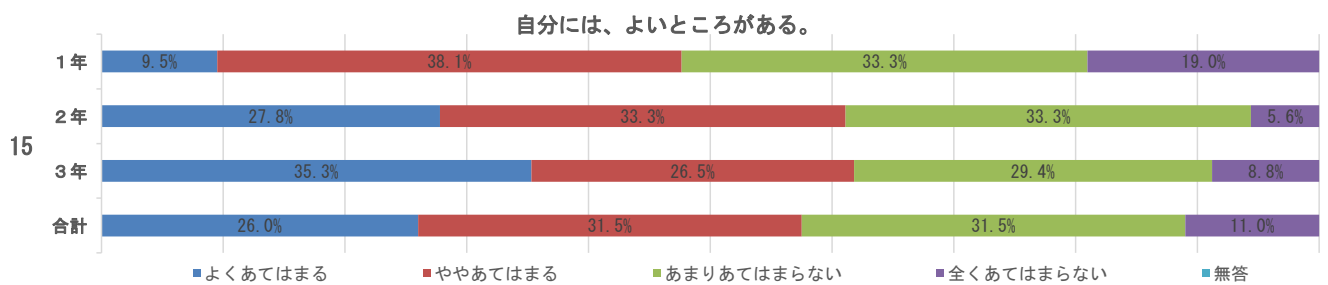
令和5年度 学校評価における反省と課題 瀬戸中学校(生徒)



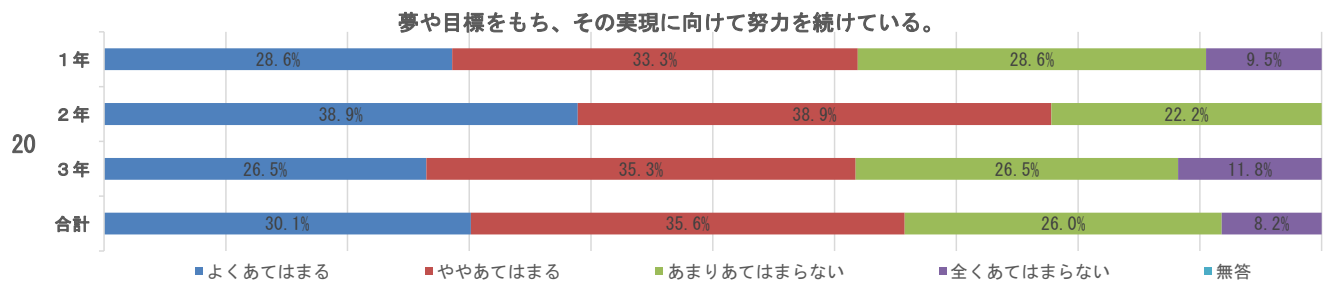
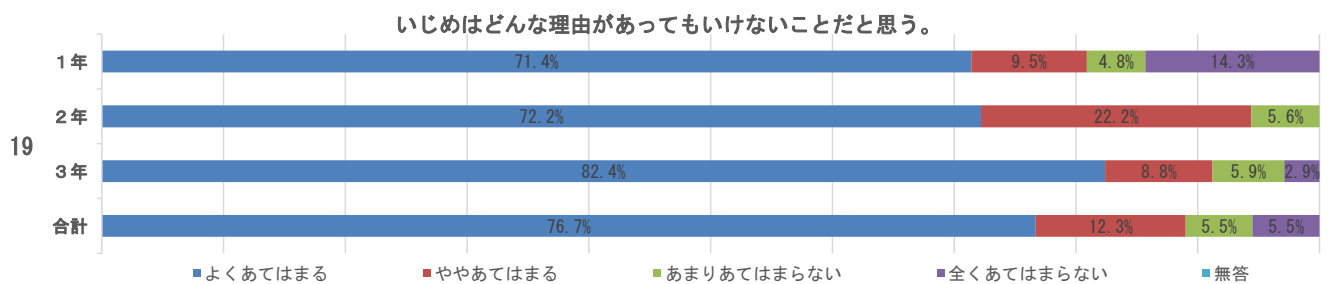
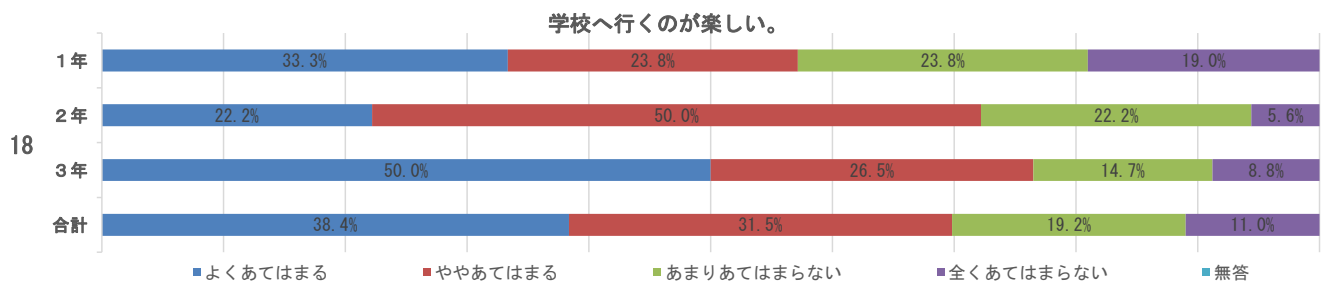
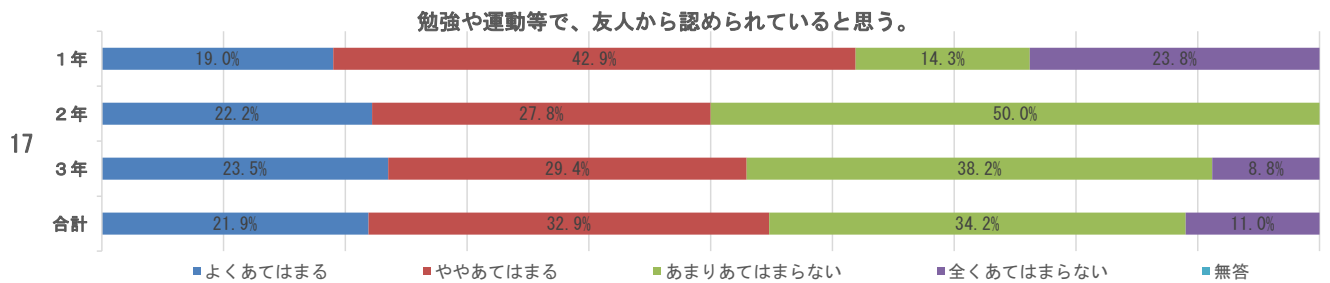
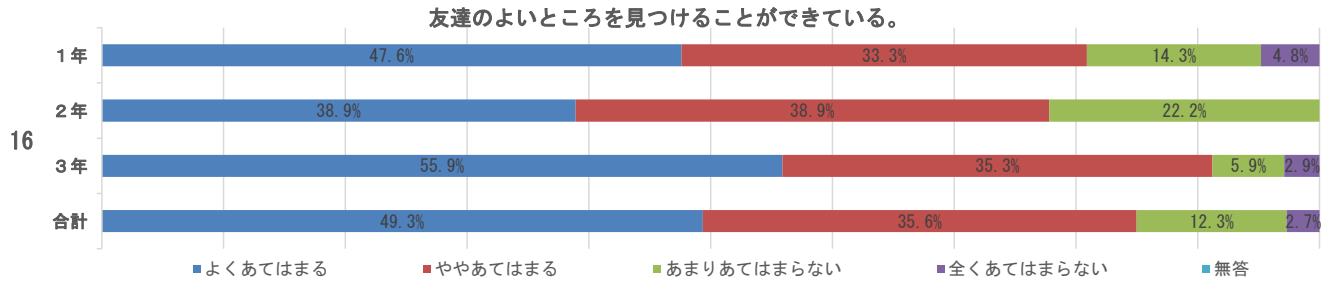
「人権教育・進路指導」の分野（設問15～20）

重点項目のひとつである設問項目20「夢や目標をもち、その実現に向けて努力を続けている」では、昨年度から概ね満足できる割合が10.7%の増加となった。学校スローガンの「小さな学校の でっかい夢!」の実現に向けて、講師先生をお招きして「夢心づくり塾」を開催し、キャリア教育の充実を図っている成果だと考える。

また、設問項目15「自分にはよいところがある」では、昨年度から概ね満足できる割合は減少している。グループ担任制を通して、ローテーションで人権学習・総合的な学習の時間等で授業を行うなど、指導方法の工夫・改善を図る。さらに、教育相談においても適切な支援ができるように校内研修を行い、実践する。



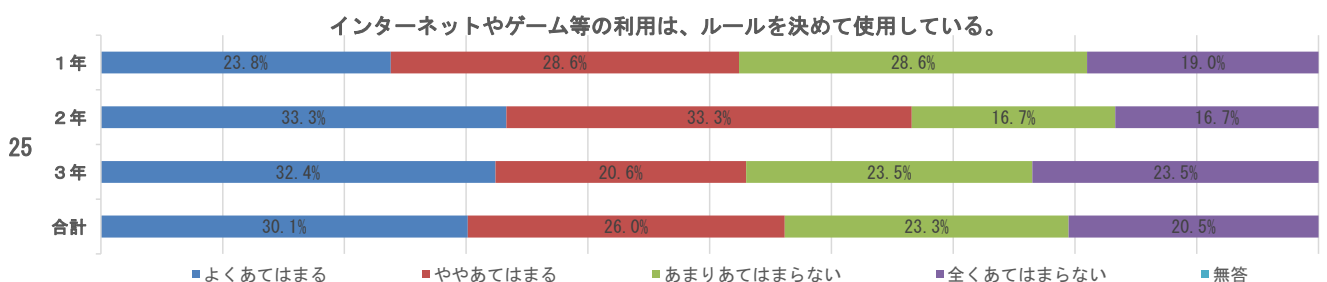
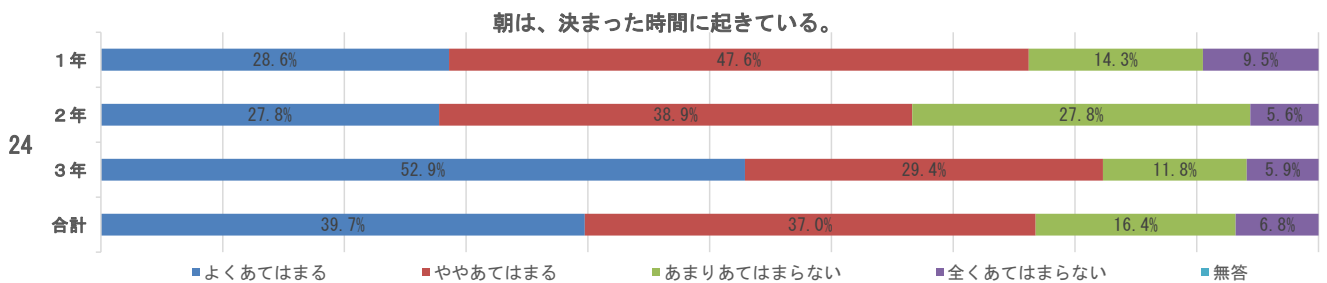
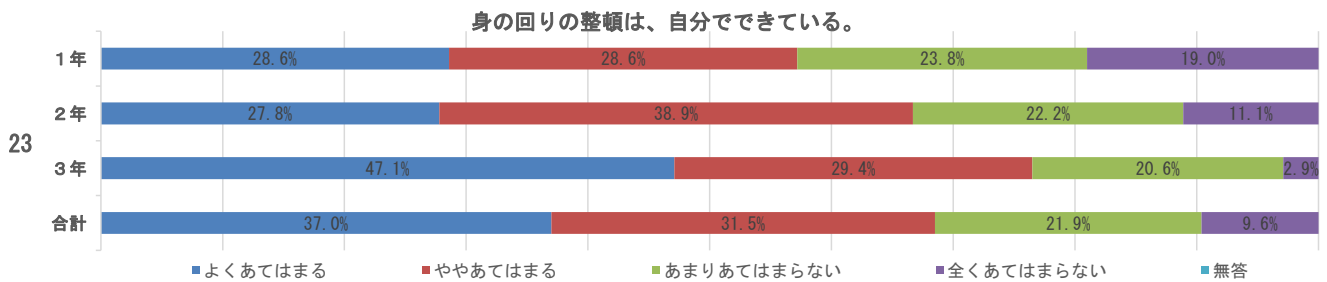
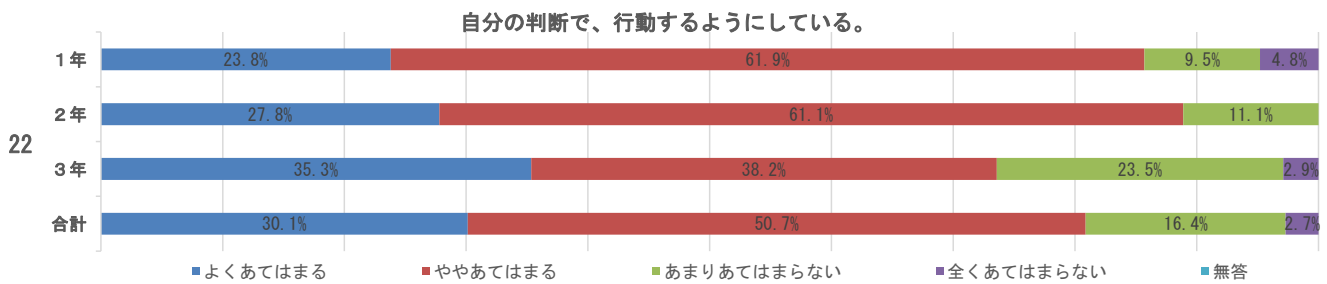
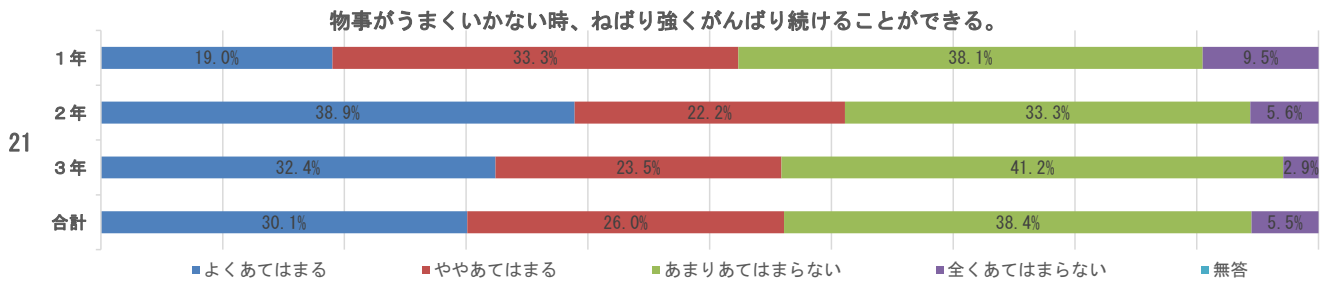
令和5年度 学校評価における反省と課題 瀬戸中学校(生徒)



令和5年度 学校評価における反省と課題 瀬戸中学校(生徒)

「自主・自律」の分野（設問21～25）

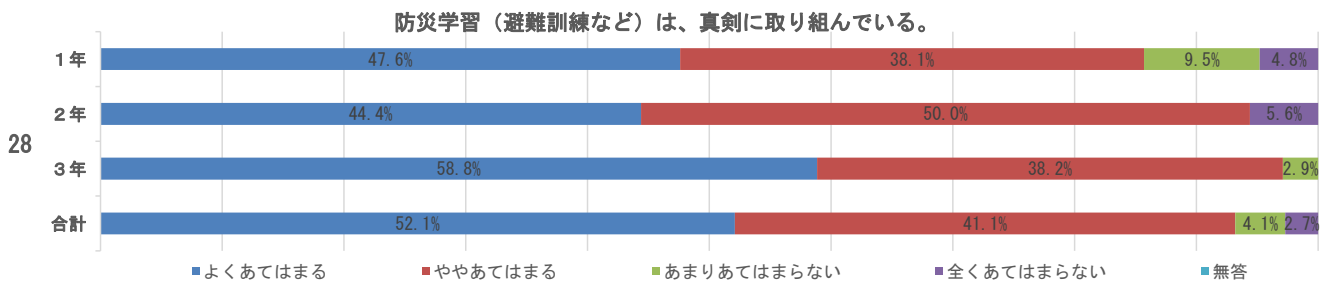
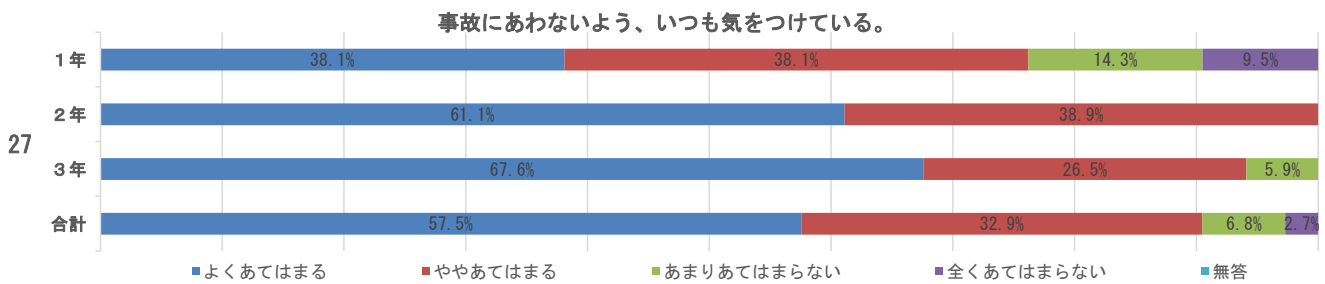
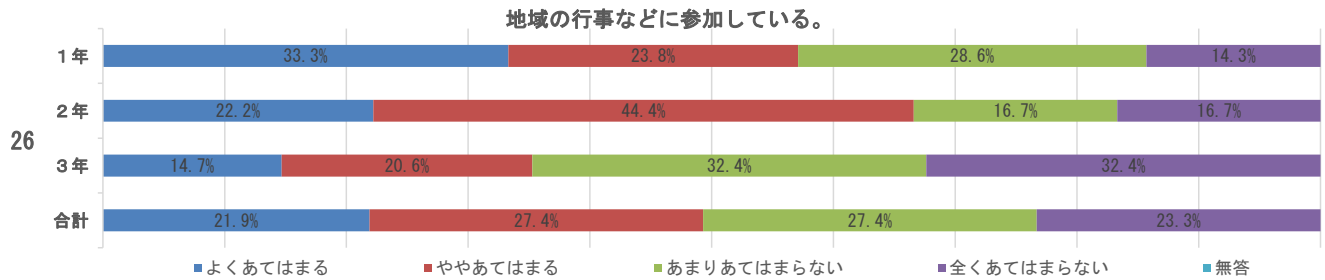
各設問項目において、概ね満足できる割合が昨年度より増加している。しかし、設問項目21「物事がうまくいかない時、ねばり強くがんばり続けることができる」については、50%台である。生徒たちが達成感を得られるように「インプット・アウトプット」等に工夫を凝らし、継続した取り組みができるように支援をしていく。また、スマートフォンやゲームの使用については、各家庭と協力・連携した指導を行う。



令和5年度 学校評価における反省と課題 瀬戸中学校(生徒)

「地域連携・安全教育・環境教育」の分野（設問26～28）

重点項目のひとつである設問項目26「地域の行事などに参加している」では、昨年度から概ね満足できる割合が10.5%の増加となった。生徒が進んで瀬戸の子ども食堂へのボランティア等への参加を通して、地域一体となって取り組んでいる成果だと考える。安全教育等においても日頃から各家庭で話し合いができてきている。さらに、地域・家庭・学校が連携した取り組みができるように情報を発信していく。



「生徒の調査について」

学習面では、「わかる・できる」授業を展開し、T.Tや個別支援の充実、きめ細かな支援を心がける。生活面では、さまざまなことに「スピード感」をもって対処し、学校からの情報発信力を向上させる。また、進路学習では、様々な活動を通してキャリア教育の推進を図っていく。

さらに、学校行事や地域の活動にチーム学校として地域社会と協力・連携した取り組みを行っていく。